

## 第10回京都フィルムメーカーズラボ (Kyoto Filmmakers Lab 2017) 結果報告

平成30年3月15日  
京都文化博物館



京都フィルムメーカーズラボは、国内・海外の若手映画製作者を対象にして、東映京都撮影所、松竹撮影所のオープンセットを使い、短編時代劇作品を製作するワークショップ（公用語は英語）。時代劇セット、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、京都伝統の本格的時代劇を体験するワークショップです。またこれにより、内外の若手映画作家間のネットワーク形成を支援します。

10回目を迎えた今年も昨年同様、従来のハンズオン時代劇に加え、東京国際映画祭と共催になるレクチャー「マスターズセッション」を開催。東京国際映画祭に参加する多彩なゲストを講師として招き、トークサロンとして交流の場も設けた。

応募状況は、web公募<2017年8月10日(木)～9月17日(日)>の結果、54カ国 214名の応募がありました。審査の結果、17カ国から外国人 23名（うち日本在住3名）、日本人 17名の若手作家 40名が審査を通過。それぞれの出身国はアメリカ、オーストラリア、バングラデッシュ、ブラジル、中国、エジプト、フィリピン、インド、インドネシア、メキシコ、ミャンマー、シンガポール、スペイン、ウガンダ、ヴェトナム、台湾、日本となった。

### <ハンズオン時代劇>

安藤清人氏（照明監督／東映）、岩田均氏（プロデューサー／松竹）監修による Hands-on 形式の時代劇製作を10月28日～10月31日の4日間に渡って東映京都撮影所、松竹撮影所、京都文化博物館を会場に開催。

### <マスターズセッション>

10月31日～11月3日まで、旧武徳殿、京都文化博物館、東福寺を会場に、実技の殺陣講座を含め13つのセッションを開催。

宿泊については、太秦の旅館菊香荘を合宿所とし、参加者全員が泊まりこむ合宿形式をとった。

主催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

[京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ、立命館大学]

共催：第30回東京国際映画祭実行委員会、KYOTO Cross Media Experience 実行委員会

協力：京都クロスメディア推進戦略拠点、日中映画祭実行委員会、上海戯劇学院、イタリア文化会館・大阪

## 1 参加者募集

期 間： 2017年8月10日(木)～9月17日(日)

方 法： web ページからの申込み(3分以内の自作サンプルをオンラインで提出)

応募件数： 214名

国籍内訳：ネパール32名、インド22名、フィリピン19名、日本18名、アメリカ16名、インドネシア9名、タイ6名、中国5名、メキシコ5名、パキスタン5名、台湾5名、オーストラリア4名、シンガポール4名、ヴェトナム4名、カナダ3名、ドイツ3名、ポーランド3名、スリランカ3名、バングラデシュ2名、ブラジル2名、ミャンマー2名、コロンビア2名、クロアチア2名、ノルウェー2名、スペイン2名、スウェーデン2名、タンザニア2名、ウガンダ2名、以下各1名-オーストリア、アゼルバイジャン、英国、ブルガリア、チェコ、エジプト、フランス、ジョージア、イスラエル、イタリア、ケニア、韓国、コソボ、ラトビア、レソト、リトアニア、マレーシア、モンゴル、ペルー、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロベニア、トルコ

## 2 参加者審査

審査日： 2017年9月23日(土)

会 場： 京都文化博物館 7階会議室

審査員： 高橋剣氏(東映京都撮影所)、岩田均氏(松竹撮影所)、永島聡氏(松竹撮影所)

審査通過： 40名

内 訳：

・17カ国から外国人23名(うち日本在住3名)、日本人17名

<アメリカ、オーストラリア、バングラデシュ、ブラジル、中国、エジプト、フィリピン、インド、インドネシア、メキシコ、ミャンマー、シンガポール、スペイン、ウガンダ、ベトナム、台湾、日本>

・男性30名、女性10名

※審査通過者のうち4名が病気また仕事等の理由でキャンセル。最終的には36名が参加。

## 3 シナリオ選考コンペ、監督選考と参加者撮影担当分け

シナリオ選考コンペと採用シナリオについて：

- ・参加者から、3分を目処に作品シナリオを公募した結果6本のシナリオの提出があった。
- ・内容、使用可能セット・俳優等の条件から以下のシナリオを選出。

『声 VOICE』 朝生 武弥(東映チーム)

『御札』 岡田信也(松竹チーム)

ハンズオン時代劇の参加者は上記審査会での評価点上位20名とし、評価点と参加者の希望を勘案して各担当を割り振った。

【東映チーム】 スーパーヴァイザー：安藤清人氏(撮影監督)

Tushar Tawade トゥシャー・タワデ(監督/インド)、Amy Hartman エイミー・ハートマン(撮影/アメリカ)、LING JUN リン・ジュン(助監督/中国)、Takeya Aso 朝生武弥(助監督/日本)、Keiya Ando 安藤恵哉(美術/日本)、Hok Lun Cyrus Tang ホク・ラン・サイラス・タン(録音/中国)、Dean Sung ディーン・サン(照明/台湾)、Masanori NUMATA 沼田真典(照明/日本)、Dorian Stone ドリアン・ストーン(製作/アメリカ)

【松竹チーム】 スーパーヴァイザー：岩田均氏（プロデューサー）

Carmen Jimenez-Fernandez カルメン・ジメネス・フェルナンデス（監督／スペイン）、ARAVINDAN G P アラヴィンダン・G.P.（撮影／インド）、SUNQI SHUN スンキ・シュン（助監督／中国）、Flavio Gusmao フラヴィオ・グスマオ（助監督／ブラジル）、Pamela Velazquez パメラ・ヴェラスケス（美術／メキシコ）、Nelson Yeo ネルソン・ヤオ（録音／シンガポール）、Hikaru Tsukuda 佃光（照明／日本）、Shungo Nakatani 中谷駿吾（照明／日本）、Massimo Burhanuddin マッシモ・ブルハヌディン（製作／インドネシア）、Shinya Okada 岡田信也（製作／日本）

【マスターズセッションからの参加者】

Rahat Rahman ラハト・ラーマン（バングラデシュ）、Fatricks Tabada ファトリック・タバダ（フィリピン）、Satindar Singh Bedi サティンダー・シン・ベディ（インド）、Nugroho Siswanto ヌグロホ・シスワントロ（インドネシア）、Chikako Suzuki すずき ちかこ（日本）、Danial Rifki ダニアル・リフキ（インドネシア）、hiroshi mori もり ひろし（アメリカ）、Bruce Chen ブルース・チェン（アメリカ）、Akiyoshi Kiba 木場明義（日本）、Sei Sugiura 杉浦青（日本）、Yoshimasa Jimbo 神保慶政（日本）、Yoshino Takemoto 竹本祥乃（日本）、Keita Hara 原啓太（日本）、Aska Okuda 奥田明日香（日本）、Yutaka Izumihara 泉原豊（日本）、Rino Oikawa 及川莉乃（日本）、Risa Higashide 東出りさ（日本）

#### 4 京都フィルムメーカーズラボ日程

##### ■Hands-on Jidaigeki

10月28日（土）12:00～

【1】『近松物語』鑑賞 会場：京都文化博物館フィルムシアター

京都ヒストリカ国際映画祭オープニング作品の『近松物語』（4K復元版・英語字幕）を鑑賞。

14:15～14:45

【2】京都ヒストリカ国際映画祭オープニング+香川京子トーク

会場：京都文化博物館フィルムシアター

京都ヒストリカ国際映画祭オープニングセレモニーその後の香川京子トークに参加。



15:00～

【3】HISTRICA×VR 見学 会場：京都文化博物館別館ホール

京都ヒストリカ国際映画祭企画の3DCGやVR、ARの先端技術を体験。

15:30～

【4】スカイリンク撮影ワークショップ「RONIN2」の使い方 会場：京都文化博物館別館2階講義室

京都のDJI代理店であるSkylink Japan社による、カメラスタビライザー・RONIN2の使い方のワークショップを開催。同社の協力により、今回の短編時代劇撮影で使用した。



17:15～

【5】Storyboard マッチ『緋牡丹博徒 花札勝負』ガイダンス 会場：京都文化博物館別館 2階講義室  
11月3日にマスターズセッションのプログラムとして開催するストーリーボード（絵コンテ）  
マッチの為の、課題シナリオの説明。

10月29日（日） 10:00～ 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所

【Hands-on 時代劇】京都フィルムメーカーズラボ・オリエンテーション

参加者、撮影所スタッフそれぞれの自己紹介およびラボ全体の概要と、移動・宿泊やその他注意点  
などを説明。

10:30～

【6】Hands-on 時代劇・プリプロダクション 会場：東映京都撮影所、松竹撮影所

各チームに分かれ、使用スタジオ、セット等を確認後、撮影・演出プランの打合せ。



10月30日（月）、31日（月）8:00～18:00 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所

【7】【Hands-on 時代劇】短編時代劇撮影

東映チーム・松竹チームに分かれて2日間で作品撮影。





## ■Masters Session

会場：東映京都撮影所、松竹撮影所、旧武徳殿、東福寺、京都文化博物館

10月31日（火） 14:00～ 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所

### 【1】【Hands-on 時代劇撮影見学会】

ハンズオン時代劇の撮影現場を、マスターズセッションからの参加者とマスコミ関係者等が見学。  
（参加者数：12カ国 45名）

11月1日（水）10:15～11:30 会場：京都文化博物館フィルムシアター

### 【2】上海・セミナー

俳優として映画界に入り映画監督となったシャーウッド・フー氏のキャリアと上海を中心として中国の映画製作の現状についてのセミナー。（参加者数：12カ国 47名）



**講師：シャーウッド・フー（『上海キング』映画監督）**

上海生まれ。ニューヨーク州立大学およびハワイ大学で学び博士号を取得。NYのパブリックシアターで学び、演劇監督としてキャリアをスタート。自身の演劇作品を元に映画『WARRIORLANLING』を監督。2作目『LANILOA』は Coppola がエグゼクティブプロデューサーとして名を連ねた。中国に戻り HusEntertainment を設立後は、TV や映画製作で質の高いヒット作を量産。現在中国で最もダイナミックでエキサイティングな監督の一人として成功をおさめている。

12:30~14:15

**【3】ライトニング・トーク 1 会場：京都文化博物館 別館ホール**

次世代のマスターとなる、KFL 参加者が自身の実績、次作、夢などを語る、各自 3 分のトーク。

（参加者数：13 カ国 44 名）

14:30~16:00

**【4】イタリア・セミナー 京都文化博物館 別館ホール**

トリノの映画製作状況と、トリノを中心にイタリアでの若手映画作家への支援事業についてのセミナー。（参加者数：13 カ国 48 名）



**講師：アレッサンドロ・バリッコ（『シルク』原作、文学者）**

1958 年トリノ生まれ。トリノ大学哲学科およびトリノ音楽院ピアノ科を卒業。音楽評論研究に従事。1991 年、処女小説『怒りの城』を発表、カンピエッロ・セレツィオーネ賞(伊)とメディシス賞(仏)を受賞。1994 年、トリノにストーリーテリングとパフォーマンスアートの学校「スクオラ・ホールデン」を共同設立。同年、独演脚本『ノヴェチェント』を出版。同作品は G. トルナトーレにより『海の上のピアニスト』として映画化された。また、1996 年発表の小説『絹』は、F. ジラールにより『シルク』として映画化された。2008 年、映画『レクチャー21』では脚本および監督を務めた。

講師：サヴィーネ・ネイロッティ（トリノ・フィルム・ラボ）

ジェノヴァ生まれ。米国・ペンシルベニア大学哲学科卒業、同大学院にて美学を専攻。その後、イタリアに帰国。RAI 国立交響楽団の広報・情報室長に就任。同交響楽団の教育部門の業務も担当。同時期にアレッサンドロ・バリッコと共同で、トリノにストーリーテリングとパフォーマンスアートの学校「スクオラ・ホールデン」を創立。2005年より Script&Pitch ワークショップを開催。2008年よりトリノ・フィルムラボのエクゼクティブディレクターとしても活躍。ベネチア国際映画祭「ビエンナーレ・カレッジ-シネマ」のプログラム責任者でもある。

16:15~17:30

**【5】ライトニング・トーク2 会場：京都文化博物館 別館ホール**

次世代のマスターとなる、KFL 参加者が自身の実績、次作、夢などを語る、各自3分のトーク。  
(参加者数：13カ国44名)

11月2日（木） 10:30~ 会場：京都文化博物館フィルムシアター

**【6】Hands-on 時代劇ラッシュ上映**

ハンズオン時代劇で撮影した各チームの素材をラッシュ上映。(参加者数：14カ国47名)



16:15~17:30

**【7】TIFF セミナー 会場：京都文化博物館 別館ホール**

東京国際映画祭日本映画スプラッシュ審査員を招き、香港・中国での若手作家の映画製作状況、オセアニア地域での若手作家の映画製作状況、そして映画祭キュレーターとして、若手作家へのアドバイスを行う。(参加者数：15カ国55名)



講師：ジェイコブ・ウォン（香港国際映画祭キュレーター）

20年以上の間、香港国際映画祭協会（HKIFFS）で活躍。現在、香港国際映画祭（HKIFF）キュレーター、香港アジア・フィルム・ファイナンス・フォーラム（HAF）ディレクター。最近、HKIFFの映画業界関連の活動を発展させるためのフィルム・インダストリー・サービスのディレクターに着任した。ベルリン映画祭の東アジア地域担当、なら国際映画祭のプログラムアドバイザーも務めている。

講師：ナシェン・ムードリー（シドニー国際映画祭ディレクター）

シドニー映画祭ディレクター。6年前に着任して以来、同映画祭を目覚ましい成長に導いてきた。ダーバン国際映画祭のマネージャー／プログラミング部門リーダー（2001年～2011年）、ドバイ国際映画祭のプログラミングコンサルタント（2005年～現在）としても指導的役割を務めている。

16:15～17:30

**【8】加藤泰トークバトル 会場：京都文化博物館フィルムシアター**

加藤泰監督『緋牡丹博徒 お竜参上』を鑑賞した後、加藤泰演出について、自由に議論をする。  
（参加者数：14カ国 102名）



講師：山根貞男（映画評論家）

1939年大阪生まれ。大阪外国語大学フランス語科卒業。書評紙・書籍の編集者を経て、映画批評誌「シネマ」69～71の編集・発行に参加。1986年より「キネマ旬報」に日本映画時評を連載している。主な著書に『映画狩り』『活劇の行方』『増村保造意志としてのエロス』『映画の貌』『マキノ雅弘映画という祭り』『日本映画時評集成 2000-2010』『日本映画時評集成 1976-1989』など。共著に『誰が映画を畏れているか』（蓮實重彦と）『映画監督深作欣二』（深作欣二と）など。近刊に『日本映画時評集成 1990-1999』がある。

18:00～19:30

**【9】殺陣講座 会場：平安神宮 旧・武徳殿**

東映京都撮影所殺陣師による京都の殺陣の精神とスタイルのレクチャーとデモンストレーション。  
（参加者数：13カ国 44名）



講師：清家一斗・東映剣会

11月3日（金・祝） 10:30～ 会場：東福寺・書院

**【10】カムバック・サーモン**

過去の京都フィルムメーカーズラボ参加者による、自身のキャリアと今後についてのトーク。  
（参加者数：14カ国44名）



**講師：リー・ター・ソン（映画監督）**

ホーチミン音楽院を卒業後、南カリフォルニア大学映像芸術学部で学び、ベトナムの商業映画やテレビドラマ、CM やミュージックビデオの現場で経験を積む。2005年に、短編作品『WhoamI?』がベトナムのTheGoldenKiteAwardにてベストショートフィルムに選定。2009年には初めての長編作品『クラッシュ（原題：『BayRong』）』を監督。ニューヨークのトライベッカ映画祭でも上映され、暗殺者の女性を巡るハードボイルドなアクションで観客に大きな印象を残した。2010年京都フィルムメーカーズラボ参加者。

13:00～ 会場：東福寺・書院

**【11】Mister Talk マイスター・トーク**

TVアニメ『ドラゴンボール』の監督である西尾大介氏を招き、同氏のキャリアと、アクションを中心としたアニメの映像表現についてのセミナー。（参加者数：13カ国46名）



**講師：西尾大介（アニメーション演出）**

1959年生まれ。広島県三次市出身。東映アニメーション所属。立命館大学4回生の時に友人から東映の採用試験の情報を聞いて応募、合格し1981年東映動画に第1期研修生として入社。TVシリーズ『Dr. スランプアラレちゃん』128話で演出デビュー。1986年『ドラゴンボール』シリーズ監督補。1989年『ドラゴンボールZ』でシリーズ監督。『金田一少年の事件簿』『エアマスター』などのシリーズ監督を経て、2004年『ふたりはプリキュア』2005年『ふたりはプリキュア MaxHeart』のシリーズ監督など。

14:30~16:00 会場：東福寺・書院

【12】Storyboard マッチ

参加者による、『緋牡丹博徒 花札勝負』の冒頭部分の絵コンテのコンペ。評価・評論は西尾大介監督を中心にゲストとして入江悠監督、篠崎誠監督が行った。(参加者数：13 カ国 46 名)



16:00~16:30 会場：東福寺・書院

【13】東福寺・方丈見学会

東福寺・方丈と庭園の見学会。(参加者数：13 カ国 46 名)

講師：爾英晃 (大本山東福寺法務執事)

